

優秀賞

続く助け合い

真鶴町立真鶴中学校三年

関 空

私は人に助けを求めることが苦手でした。自分ができないとき、風邪をひいて体調が悪いときも人に頼れず、逆に明るく振るまつてしまいます。人に助けを求めるとき、相手はどう思うのだろう、めんどくさいと思わないだろうか、頭の中で色々考えてしまいます。私の周りには、私を気にかけてくれる人や助けてくれる人が沢山いるのに、相手が嫌な思いをしないように、嫌われないようにと思っていました。

日本では人に迷惑をかけないように教わります。しかし生まれてから死ぬまでに人に迷惑をかけずに生きていくことは不可能だと思っています。他の国では違う考えがあることを知りました。その国では「人に迷惑をかけてもいいからその分、人を助けなさい。」と。私は今まで、人に迷惑をかけたくないと思いながら過ごしてきました。ですがこの話を聞いて迷惑をかけてもいいんだ、助けてもらった分、人を助けようと違う考えを持つことができました。

私は一日に何度も助けられています。例えば学校の授業の時、私はわからないところを教えてもらったりします。どんな人にも得意、不得意があります。不得意なことは人に頼り、逆に得意なことは他の人に教えてあげる。お互いの足りないところを補いながら、私たちは生きているのだと、日々の生活の中で実感します。中には周囲の人に助けを求められない人もいます。自分の知り合いに相談しにくいこともあります。最近では電話や手紙で話を聞いてもらうこともできるし、SNSで発信し、より多くの人に助けてもらうこともできます。身近な人以外にも助けを求められる場所が増え、今よりもっと悩みを打ちあけられる人が増えるといいなと思います。

助けを求めるのは、今だに私にとって難しいです。しかし自分が助けを求めるのを躊躇してしまうからこそ、私が気付いてあげられたらなと思います。

どんな人の周りにも自分を見てくれていて助けてくれる人がいるはずです。自分が助けてもらったとき、その二倍、人を助ける気持ちが大それたと思います。その助けられた人は、そのまた二倍、人を助ける。それが続けば、この世界は助け合いで溢れるのではないのでしょうか。自分の助けた人が助けてもらう喜びを知り、他の人を助ける。そんな世界になることを望んでいます。そんな世界にするには、まず自分が行動する。私の行動を見て続けてくれる人がいる。それが私の目標です。